

たっちの発行は年3回です。次号の発行は平成31年2月10日です。

たっち

立川市教育だより

●今号の主な内容
 2面 … 第五小学校大規模改修/アール・ブリュット立川～高松からの風～/若葉台小学校の校歌決定/中学校道徳の教科書採択
 3面 … 姉妹都市中学生サミット/中学生職場体験協力事業所募集中
 4面 … 立川市図書館40周年を迎えて未来へ/立川市の歴史と文化財

編集・発行/立川市教育委員会
 〒190-8666 立川市泉町1156-9
 ☎042(523)2111(市役所代表)
 立川市ホームページ
<https://www.city.tachikawa.lg.jp/>

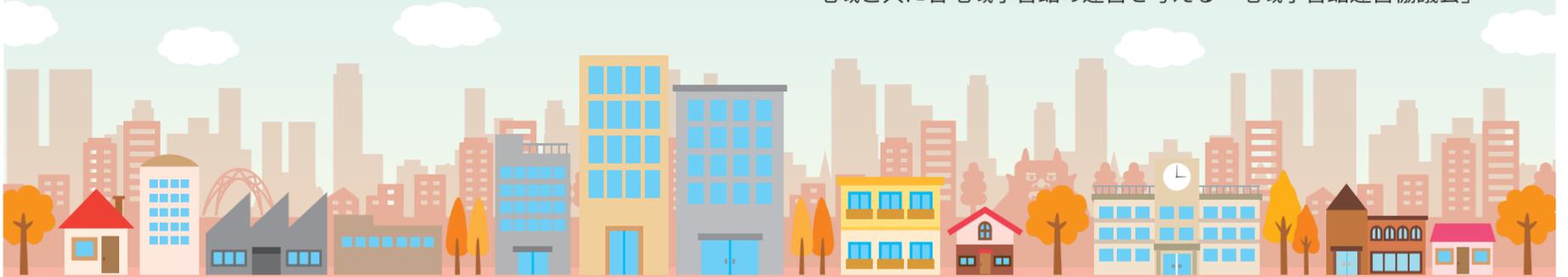


学びと交流による まちづくり

地域学習館

地域学習館では、「市民の共学・協働に育まれたまちづくり」の実現に向け、「たちかわ市民交流大学」を核とした生涯学習事業を行い、さまざまな学びを通じて地域の交流の輪が広がる機会をたくさん作っています。ぜひご利用ください。

- 市民、団体、行政それぞれの担い手による各種「講座」
- サークルの活動の成果を発表する「学習館まつり」
- 乳幼児から大人まで楽しめる観劇会・映画会などの「催し物」
- 60歳以上の仲間づくり「寿教室」
- 地域と共に各地域学習館の運営を考える「地域学習館運営協議会」



平和・人権学習事業

子どもから参加できる講座や、映画会、展示会等を実施しています。また、市民主導の人権学習事業実行委員会による映画会、東京都人権啓発センターとの共催展示も行っています。今年度は新たに、中学生を広島に派遣する「平和学習派遣事業」を実施しました。

平和学習派遣事業

中学生が広島に赴いて平和の大切さについて自分の肌で感じ、考え、伝えることを目的に実施しました。参加者は、広島平和記念資料館等の展示や現地被爆者のお話に感銘を受け、平和への思いをさらに深めていました。参加した中学生は、平成31年2月16日(土)たましんRISURUホールで開催する教育フォーラムで学習内容を発表します。



夏空の広島、平和への想いを胸に献花

地域学習館等での「立川市民科」事業

平成29年度から地域学習館や歴史民俗資料館で大人向けの「立川市民科」講座を開催しています。これまでは立川の歴史や遺跡、飛行場、70周年を迎える学習館、ブルーベリー農業、西砂の防災、自然の観察などを話題に地域のさまざまな顔を学びました。今後は、地域の課題解決に向けてヒントが見つかるような講座も企画していきます。



ブルーベリー農園で地域の魅力を再発見

寿教室

高齢者の自主的な学習活動を促進するため、立川市内在住の60歳以上の方の「生きがいづくり」「仲間づくり」「健康づくり」の場として、市内9会場で寿教室を実施しています。健康体操・コーラスなどの通常活動のほか、隔年ごとにバスハイク・芸能フェスティバルを行うなど、多彩な活動を同教室の皆さんと楽しく行っています。



寿教室の合同芸能フェスティバルの様子

地域学習館一覧

- 柴崎学習館＝柴崎町2-15-8 ☎(524) 2773
- 砂川学習館＝砂川町1-52-7 ☎(535) 5959
- 西砂学習館＝西砂町6-12-10 ☎(531) 0431
- 高松学習館＝高松町3-22-5 ☎(527) 0014
- 錦学習館＝錦町3-12-25 ☎(527) 6743
- 幸学習館＝幸町2-1-3 ☎(534) 3076

第五小学校大規模改修 校舎等をリニューアルしました

第五小学校の校舎等の大規模改修工事が平成30年8月に完了し、子どもたちは2学期からきれいになった校舎等で学校生活を送っています。

☎️ 教育総務課・内線2474

大規模改修工事は、老朽化が進んだ校舎等の長寿命化を図るためのものです。主な改修箇所は、外壁、建具、内装、トイレです。昇降口などのスロープやエレベーターを設置しバリアフリー化を図りました。また、一部の床スラブ（鉄筋コンクリートの床材）が校舎建設時の設計図書に記載された厚さに対して不足していたため、補強工事を行いました。

木のぬくもりがある昇降口



普通教室や特別教室等は、天井や内装を改修したほか、LED照明を新設しました。既存床は研磨や塗装をするなどしてきれいにしました。

改修した普通教室



現在、校庭の整地工事等を行っており、校舎等の大規模改修工事は平成31年2月末に完了する予定です。

なお、体育館の大規模改修工事は平成31年度に実施を予定しています。

平成31年度に市立中学校で使用する「特別の教科 道徳」の教科書を採択しました

市教育委員会は、8月30日に開催した第16回教育委員会定例会で、平成31年度に市立中学校で使用する「特別の教科 道徳」の教科書を以下のとおり採択しました。この教科書は原則として平成32年度まで継続使用します。

採択に当たっては、校長先生・PTAの方・市民の方を委員とする選定検討委員会や教員を部会員とする調査研究部会を設置し、公平・公正な採択に努めました。

科目	特別の教科 道徳
発行者	東京書籍株式会社
教科用図書の名	新しい道徳 1～3

☎️ 指導課・内線2488

アール・ブリュット立川

～高松からの風～

☎️ 高松学習館 ☎️ (527) 0014



アール・ブリュットとは、「生の芸術」と訳されるフランス語で、正規の美術教育を受けていない人々が、伝統や社会の潮流に流されることなく独自の方法により制作した作品を指します。アール・ブリュット立川実行委員会との共催で地域の作業所の方たちの作品も含め45点の作品を9月5日～17日まで展示しました。来場者からは「身近なところで、こんなにすごい作品が鑑賞できてうれしいです」「精巧な粘土細工に驚きました!」といった声が寄せられました。高松図書館では関連図書のミニ展示も実施しました。

展示期間中に実施した事業

■ワークショップ「自分だけのノートを作ろう」 自分だけのノート作りのワークショップを行いました。多くの方が来場し、材料を買い足しての実施。すてきなノートができました。



■ママのための避難所体験 防災課職員や東京都環境学習リーダー・山岸修子さんを講師に迎え、長期保存のお水の試飲やアルファ化米を作って試食などを行い、簡易トイレ等の防災グッズについても学びました。

参加者からは「防災の用意がなかなかできていなかったもので、参考にしたいと思いました。ソーラーライト、ロープの話など、役に立ちました」といった声が寄せられました。



■公演「知的・発達障がいのあるいろいろな個性の輝き～オンリーワンの個性を伸ばそう」 立川市手をつなぐ親の会、キャラバン隊「ひこうき雲」の皆さんを講師に迎え、手袋を重ねて着用して折り紙を折ったり、特殊なゴーグルをつけるなど知的・発達障がいの方の大変さを疑似体験しました。また、「素敵な個性」をテーマに子育ての経験談をたくさんお聞きしました。

■職場での、発達障害との上手な向き合い方 精神保健福祉士・上田知之さんを講師に迎え、具体的な指示を出す、相手の個性を理解し特性を生かした作業をしてもらう等の配慮で、円滑な職場環境を築けるようになることを学びました。

立川市立若葉台小学校の校歌が決定しました

平成30年4月に開校した若葉台小学校の校歌の歌詞が決定しました。

平成30年4月～5月に校歌の歌詞の公募を行い、121作品の応募がありました。全応募作品について、新学校設立検討委員会や教育委員会定例会において協議を重ね、立川第九中学校3年生の白井雄大さんの作品が選ばれました。

作曲はジャズピアニストでたしかわ交流大使の山下洋輔さん、編曲は国立音楽大学出身の作曲家である挾間美帆さんに行っていたいただきます。

平成31年2月9日(土)に開催する開校記念式典で校歌の発表を予定しています。

☎️ 学務課・内線2515

立川市立若葉台小学校校歌

作詞 白井雄大
作曲 山下洋輔

一、若葉のように のびのびと
夢だけを見て 突き進め
想像の羽 無限大
羽ばたく先に 光さす
進め 進め 若葉台
羽ばたけ 羽ばたけ 若葉台

二、けやきのように 根を張って
友との絆に 笑顔咲き
広がる木々は 寛大だ
どんな心も 受け入れる
笑え 笑え 若葉台
大きく 大きく 若葉台

三、双葉奏でる ハーモニー
学びやの窓 富士光る
二つの歴史 ここにある
力合わせて 継ぐ時代
歌え 歌え 若葉台
つながる つながる 若葉台



姉妹都市中学生交流事業

立川市・大町市姉妹都市 中学生サミット



7月14日～15日に、立川市の姉妹都市である長野県大町市の中学生18人を招待し、「平成30年度第4回立川市・大町市姉妹都市中学生サミット」が開催され、市立中学校の全9校から計18人の代表生徒が参加しました。

このサミットは、平成27年度に開催した第1回サミットで生徒たちが作り上げた「共同宣言」に基づき、両市の交流を深め、その交流の成果を各中学校から地域・市民へ発信していくこと、都市と農村の

共存について考えること等を目的として実施しています。

今年、「東京2020オリンピック・パラリンピック大会に向けて、立川のよさを英語でPRしよう」をテーマに班別での立川市内の見学、英語のプレゼン資料作り、ALT（外国語指導助手）との発表練習、成果発表会等を行いました。参加した生徒は、交流を通して、多角的視野をもち、郷土やまちのよさを再発見するとともに、郷土やまちを愛する心を深めることができました。

☎指導課・内線2134



教育委員の活動を紹介します

教育委員の5月～8月までの活動は下表の通りです。またその他に道徳授業地区公開講座、各種研修会、運動会等へ参加しています。

活動実績（5月～8月）

5月11日	平成30年度立川市立小学校PTA連合会定期総会
5月12日	平成30年度立川市立中学校PTA連合会定期総会
5月14日	第9回教育委員会定例会
5月22日	東京都町村教育委員会連合会定期総会
5月31日	第10回教育委員会定例会
6月14日	学校訪問（七中）
	第11回教育委員会定例会 第1回総合教育会議
6月19日	学校訪問（六小）
6月28日	学校訪問（若葉台小）
	第12回教育委員会定例会 平成30年度立川市立小学校PTA連合会と教育委員会との懇談会
7月10日	学校訪問（九小）
7月12日	第13回教育委員会定例会
7月27日	第14回教育委員会定例会
8月9日	第15回教育委員会定例会
8月30日	第16回教育委員会定例会

☎教育総務課・内線2465

中学生の職場体験協力事業所募集中！

市立中学校では、全校で5日間の職場体験を実施しています。これまでも多数の事業所にご協力をいただき事業を進めてきましたが、生徒を受け入れてくださる事業所が不足しています。中学生の職場体験はキャリア教育として大変意義のある事業と

捉え、教育委員会は受入事業所の拡大に努めてきました。

中学生の職場体験に「協力できる」、「興味がある」という事業所がございましたら指導課へご連絡ください。事業概要等についてご説明させていただきます。



職場体験の目的と概要

目的

- 仕事を体験することにより、望ましい勤労観や職業観を育む。
- 学校とは違う社会で学ぶことにより、社会性やマナーを身に付ける。
- 職場の方々やお客様、利用者等、多くの方々との関わりを通してコミュニケーション力を高める。

概要

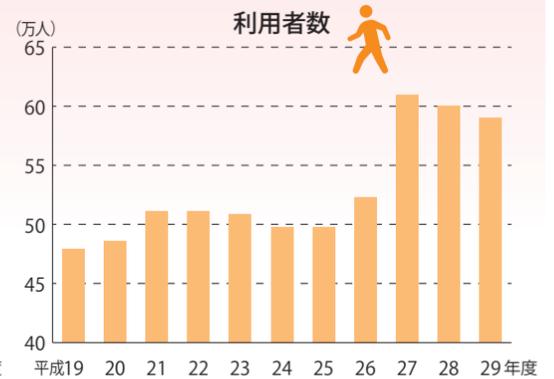
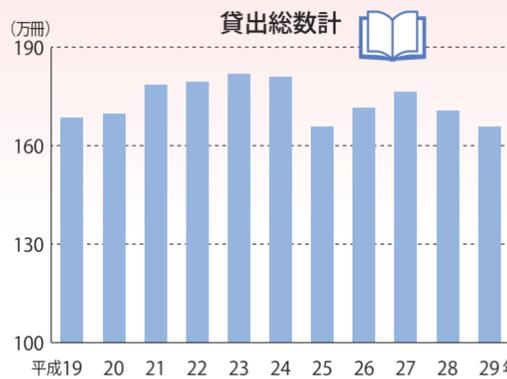
- 中学校2年生が職業体験を5日間実施する。
 - 各校3～4人程度の生徒が、午前9時～午後3時を目安として体験する。
- ※日数、人数、時間等、ご都合に合わせてられる場合がございます。お気軽にお問い合わせください。

☎指導課・内線2134

立川市図書館 40周年を迎えて未来へ

立川市図書館は今年で40周年を迎えました。昭和53年7月に図書館条例が制定され、地区図書館を開館し、平成7年に中央図書館が開館しました。40年間の皆さまのご利用に感謝するとともに、これからも新たな企画も取り入れて市民の皆さまと共に歩んでまいりますので、ぜひお近くの図書館にお立ち寄りください。

☎中央図書館 ☎(528)6800



本との出会いの場としての図書館

数多くの本が出版される中、さまざまな情報から本を選ぶ楽しさは格別です。図書館では市内の関連機関などと連携して時節に合った展示を行い、所蔵する本を紹介しています。利用者の皆さまと本の出会いの場づくりを通して、新たな交流の起点ともなる役割も果たしていきます。



本好きな子どもが育つ図書館をめざして

0歳から参加できるおはなし会をはじめ、市内小・中学校への本の貸し出し、お薦めの本を紹介するポップバトル、ビブリオバトルなど、常に身近なところに本があり、交流できる場所として図書館は活動しています。これからも本好きな子どもが育つ図書館をめざしてさまざまな催しを企画していきます。



くらしに役立つ図書館

就職、子育て、健康など、さまざまなライフステージについて、考えるヒントになるようなコーナーづくりや調べもののお手伝いをしています。「図書館に行けばくらしに役立つ情報がある」と多くの方に思ってもらえるよう、さまざまな工夫をしています。



立川市は首都圏の「業務核都市」として位置づけられ、国や東京都の各機関が多く集まっています。これらの機関が集中する地域の中央部分、広域防災基地や国営昭和記念公園がある場所が、かつて立川飛行場であったことはご存じでしょうか。

第一次世界大戦(1914〔大正3〕年)〜1918〔大正7〕年)をきっかけとして、飛行機の実用性が着目されるようになると、日本でも東京の近郊に飛行場を造ろうとする動きが出てきました。立川は、鉄道(中央線)が通っており、物資輸送や東京市内からの交通の便がいいこと、また人家も少なく、平地が広がっていたことなどから、飛行場建設地に選定され、1922〔大正11〕年に立川飛行場が完成しました。完成当初は陸軍飛行第五大隊の拠点として軍事色の強い飛行場でしたが、翌年の1923〔大正12〕年に関東大震災が起ると、壊滅的な被害を受けた民間航空機能も立川に移されてきました。民間使用が始まると、旅客、貨物、郵便などの定期運航のほか、遊覧飛行での利用者も増え、外国の有名飛行家や俳優などの著名人、一般の旅行者も訪れるようになりました。以降、1933〔昭和8〕年に羽田飛行場へ民間航空機能が完全に移されるまで、立川は「空の都」、空の玄関口として大いににぎわいを見せます。



民間航空機関が集まる飛行場の西地区

立川市の歴史と文化財

37

立川飛行場からの遊覧飛行

立川飛行場を利用した著名人にはさまざまな人がいますが、歌人として有名な斎藤茂吉(1882〔明治15〕年〜1953〔昭和28〕年)もそのひとりです。茂吉は、文化人を飛行機に乗せて即興で創作してもらうという東京朝日新聞社による企画「空中競詠」のため、1929〔昭和4〕年11月28日に、立川飛行場から操縦士のほか同世代の人気歌人であった土岐善麿、前田夕暮、吉植庄亮とともに同社機のコメット第102号機に搭乗、遊覧飛行しました。茂吉の日誌には、飛行当日が「天気晴朗」であり、「朝七時ノ新宿発ノ電車ニテ立川二下り、自動車(七十銭)ニテ立川飛行場に行つたとあります。茂吉らに乗せた飛行機は、東京府域や横浜、箱根、秩父の山々の上空を2時間15分にわたり航行し、立川飛行場へ「午後零時十七分」(連作「虚空小吟」中のメモより引用)に着陸しています。

茂吉はこの飛行体験をもとに、当日の即詠と、後日詠んだという即吟「飛行機」、連作「虚空小吟」、あわせて60首もの歌を詠んでいます。その体裁からも有名な「電信隊浄水池女子大学刑務所射撃場塹壕赤羽の鉄橋隅田川品川湾」もこの企画で詠まれたものです。また、「われより、幾代か後の子孫ども今日の我が得意をけだし笑はむ」というユニークな歌も詠んでいます。東京から大阪までの飛行機の搭乗運賃が30円(大卒初任給の半分程度)という高額で、飛行機に乗ること自体がもの珍しい事件だった時代にあつて、自身の飛行体験を子々孫々へ向けて得意げに表現しています。

歴史民俗資料館では12月2日(日)まで、立川の街の変化に密接に関わってきた立川飛行場の歴史を振り返る企画展「空の都たちかわー立川飛行場の歩み」を開催中です。多くの皆さまのご来館をお待ちしています。